

## 今週の活動から



11月18・19日に開かれた全国市議会議員研究フォーラム。福島県構内にも歓迎の横断幕がありました。(釘丸久子議員)



11月21・22日の2日間、厚木中央公園で、「第46回厚木市農業まつり 畜産祭・収穫祭」が開催されました。

開会式では挨拶が続きました。TPP大筋合意、直前の農協組合法の改正と、国政の話が出ないわけがありません。

今年は組合長が変わりましたが、前組合長同様、国政における農業政策の在り方に異を唱えるものでした。民主党衆議院議員も、国会決議で言われた5品目が守られないこと、決まってもいないのに対策をするのはおかしいなど。自民党衆議院議員は「不安払拭」を連発しましたが、この間の国策が農業者・国民に不安を与えることを大前提としていることがよくよく解ります。

閉会挨拶では「食料が自給できないのは先進国ではない」との引用もあり、開会式は一見和やかながら、大変な緊張がありました。

品評会は1300点超の野菜等が出されているとかで、観ているだけで楽しくなります。

生きることは、食べることです。

安心の食料は、日本の大地から。

(栗山香代子議員)

# 「地方創生」は失政の上書き更新

全国市議会議長会研究フォーラム in 福島

毎年行われる全国市議会議長会研究フォーラムが、今年は11月18・19日、東日本大震災の被災地の福島で開催されました。釘丸・栗山両議員が参加。

### 『基調講演』

大震災からの復興と備え

五百旗頭 (いおきべ) 真氏

(熊本県立大学理事長・元防衛大学校長)

東日本大震災と阪神淡路大震災を比較すると、震災の状況も違い、その対処も様々である。東北地方は何回も地震と津波を経験している。災害対応がしっかりしていた『釜石の奇跡』は奇跡ではない。被災地の復興には3つのカテゴリーがある。

①町全体が壊滅的な打撃を受けたところは、高台移転や防波堤・防潮堤の多重防御、  
②残った施設を生かしての再生、  
③新たな賑わいのセンターを中心にした再生、である。

地震は「共助」が決定的。お祭りなどで濃密な地区活動をおこなっていたところほど、住民の生存率が高かった。

### 『パネルディスカッション』

震災復興・地方創生の課題と自治体の役割

コーディネーター

城本勝氏 (NHK福岡放送局長)

パネリスト

大滝精一氏 (東北大学大学院教授)

役重眞喜子氏 (花巻市コミュニティ



アドバイザー

山下祐介氏 (首都大学東京准教授)

金井利之氏 (東京大学公共政策大学院教授)

学院教授

高木克尚氏 (福島市議会議長)

テーマは3つ。

①復興の現状と課題

②東北 (被災地) と地方創生

③自治体と議会の役割

金井氏が「地方創生は、震災復興を忘れさせるために新たな課題を押し付けたものだ。失政の上書き更新である」「国のイニシアティブに従う地域活性化策は、ほぼ間違いない失敗する」と言い切ったことに端を発して、パネリストから次々と本音が語られました。

役重氏「地域コミュニティの力は

大きい。地方創生というが、今

までの積み重ねが否定されてい

る。地方に行くほどレベルが下

がるという意識が中央にはある。

高木氏「『地方』とか『被災地』

とか括られるのは迷惑。地震・

津波の被害と、原発被害とは

全然対応が違う。地方独自の取

り組みの評価をしてほしい。

## フォーラム2日目

11月19日 (木)

課題討議

「震災復興と議会」現場からの報告

コーディネーター

河村和徳 (東北大学情報科学研究科准教授)

事例報告者

伊藤明彦 (陸前高田市議会議長)

熊谷伸一 (気仙沼市議会議長)

平田 武 (南相馬市議会議長)

自治体と議会の役割に関しては、

役重氏「合併により議員の数が減り、住民の意見が吸い取られなくなった。議員定数減や報酬カットは、議会が軽くみられているということだ。合議体としての議会の役割を発揮してほしい。

大滝氏「自治体の中に『何とかな

る』という甘えや依存がある。

これを払拭し、住民と自治体が

主体的に行動できるようにする

ために、議会の役割は大きい。

議員団は研修や視察、個人的に

も毎年被災地へ行っていますが、

地震・津波の被害では復興が目

に見えるのに、原発事故があったと

ころでの復興は進まない状況を実

感しています。

自然災害と、原発事故という人

災の大きな違いの中で、議会・議

員がどのような役割を果たしたの

か学んできました。

同時に、復興が進まない現実の

もとで、国が新たに「地方創生」

を言い出していることへの被災地

の憤りも強く感じてきました。